

## 第1回 伊賀市中心市街地活性化委基本計画策定委員会 議事概要

- 日時：2023（令和5）年7月25日（火）10：00～12：15
- 場所：伊賀市役所 501会議室
- 出席者：久隆浩委員長、菊野善久副委員長、藪本弘子委員、福永真司委員、山本禎昭委員（オンライン）、中村忠明委員、南徹雄委員、濱津享助委員、木宮康介委員、平井俊圭委員、松井隆昇委員（オンライン）、豊福裕二委員、杉山美佐委員、濱崎久美委員、大森秀俊委員  
オブザーバー参加 独立行政法人中小企業基盤整備機構 綾野昌幸 SAD
- 事務局：産業振興部 堀川次長、中心市街地推進課 内田主幹、乾主任、藤山伊賀市中心市街地活性化協議会 山崎事務局長（オンライン）、上野商工会議所 佐治事務局長

### 1. 開会

### 2. あいさつ

大森副市長よりあいさつ

### 3. 委員の委嘱・任命

### 4. 伊賀市中心市街地活性化基本計画策定委員会設置要綱について

- ・委員定数は本要綱第3条で20人以内となっており、現在16名で余裕があるので、必要に応じて委員を追加することができる。（委員）

### 5. 委員長、副委員長の選任について

- ・委員長に近畿大学教授 久隆浩様、副委員長に上野商工会議所 菊野善久様を選任。

### 6. 協議事項

（1）伊賀市中心市街地活性化基本計画策定委員会運営規定（案）について  
全会一致で承認

（2）第3期伊賀市中心市街地活性化基本計画の策定について

#### ①中心市街地活性化制度の概要について

意見なし

#### ②伊賀市における中心市街地活性化の取り組み

- ・目標設定による管理を行い、進捗状況を毎年検証していくべきである。（委員）

### ③ 中心市街地の現状と課題について

#### ○ 第2期伊賀市中市街地活性化基本計画の進捗状況

- ・ 中心市街地の人口データについて、社会増減数だけでなく自然増減数や年齢構成も提供いただきたい。(委員)
  - 次回委員会までに準備する。(事務局)
- ・ 空き店舗情報システム及びコンサルタント事業の内容を具体的に教えてほしい。(委員)
  - 空き店舗の調査、登記簿等での所有者の確認、貸出の意向調査、それらの情報公開を行っている。(事務局)
- ・ 空き店舗を活用して開業した民間事業者の詳細、空き家バンクの活用状況を教えてほしい。(委員)
- ・ 加えて、中心市街地の社会インフラの状況、医療機関や商業施設の状況も提供いただきたい。(委員)
- ・ 中心市街地に移住された方の属性や移住の経緯等も、可能な範囲で提供いただきたい。空き店舗もそうだが、1件1件の顔が見えた方が、今後の展開として話がしやすい。(委員長)
  - 次回委員会までに準備する。(事務局)

#### ○ 市民まちづくりアンケート結果（令和4年11月実施）

- ・ 情報発信においては、SNSでの宣伝が重要であることがわかる。(委員)

### ④ 策定方針、策定体制、策定スケジュール

- ・ 内閣府との協議において、前回の計画策定時は委員会への情報共有がなかったように思うので、今回は情報共有をお願いしたい。(委員)
  - 今回は委員の任期を約2年としている。内閣府と調整する中で、出てきた指摘を委員会の中でフィードバックしていきたい。(事務局)
- ・ 第3期計画は、第2期計画の延長であると考え。第2期計画の個別事業を洗い出し、新規・継続・中止と判断する作業をしていくべきである。(委員)
  - 一段階：一定成果が出ており次の段階に引き継ぐもの、二段階：成果が見えていないが中長期的に続けていくべきもの、三段階：効果がないため中止するもの、の三段構えではないかと考える。出来ることだけ書くのではなく、二段目の事業も継続するなど、計画書の作り方を工夫されたい。(委員長)

### ⑤ 意見交換

- ・ 上野南部地区住民自治協議会では、人口が急激に減っており、高齢化率も39%である。3期計画では、若い世代の定住者が増えるような事業に力を入れてほしい。(委員)
- ・ 住民にとっては、上野〇〇町というエリアが中心市街地であるとの認識だが、現在のエリアでは上野〇〇町でも入っていない町がある。中心市街地としての一体感が感じにくいため、エリア設定については改めて議論していただきたい。(委員)
- ・ 上野西部地区住民自治協議会でも、南部と同じ課題に直面している。計画策定の際には空き家対策との連携もお願いしたい。(委員)

- ・伊賀市商工会では、10年かけて地域でのイベントを行ってきた。継続するとリピーターも増え、満足の声も聞こえてくる。(委員)
  - 計画づくりでは課題ばかりが表に出てくるが、このような上手くいった事例の秘訣を共有し、広げていく観点も必要。(委員長)
- ・コロナ禍を経て、オンラインでどこでも仕事ができるようになった。密集した都市部ではなく、広々とした田舎で暮らす方が良いのではないかという考え方が広がったことはチャンスである。(委員)

#### 7. 今後の予定について

- ・第6回目までの日程と議事内容(予定)を共有した。
- ・次回 8月29日(火)14時～

(以上)